

子育て・家庭教育相談担当者研修会Ⅰ

職員研修
有志指導者研修
要請研修

子育て・家庭教育にかかる相談対応に相応しい心構えを身につけるとともに、相談員としてのスキルアップを図ることを目的として実施しました。講義と演習を通して、「自分らしさ」について体感する機会となりました。

【講義】

「相談者が自分らしい人生を歩むための支援」

「ノットノーイング」（聴かなければ分からないというスタンス）の姿勢を基本に据えることや相談者が自分らしく生きていくためのお手伝いをする姿勢で対応することが大切であることを学びました。カウンセラーが相談者のことを知ろうとし続けることで、相談者の視点が変化してきて現実が変容していくことを、豊富な臨床事例をもとに教えていただきました。

【講師】心理臨床オフィスすがわら
菅原 憲 氏

【演習】

「カウンセリング体験を通して、自分らしい支援の在り方を探る」

講師によるライブカウンセリングのあとに、ペアで「お買物」をテーマに、相談員と相談者役で「カウンセリング」を体験しました。相談員として話を膨らませて、その人を理解するための情報を引き出すことができるかを体験しました。「お買物」以外の縛りがなく、友達のように自由に話すことで、対話に命が吹き込まれていくこと、ただの雑談に聞こえるかもしれない対話が相手を理解する情報を得る上で一番効果的であるということ、参加者は体感していました。普段、「相談員」という縛りに、いかに自分が縛られているか、相談員も自分らしくていいのだということを経験することができました。



《受講者の声》



- ・相談者をリスペクトする姿勢、その方が「自分らしく生きていく」お手伝いをするという姿勢に心を打たれました。
- ・相談員も「自分らしく」という言葉が今後の自信になりそうです。私らしく相談者と向き合っていきたいです。
- ・友達のように自由に話すことで、対話に命が吹き込まれていくことを、演習を通して体験できました。
- ・相談者の個性を尊重するために、「ノットノーイング」の姿勢で丁寧に聴くことで視点が変わっていくということが印象に残りました。また、演習を通してその体験ができました。

《受講者の評価》

A（有意義）	86.7%
B（どちらかといえば有意義）	13.3%
C（どちらかといえば有意義でない）	0%
D（有意義でない）	0%

《担当者（佐々木）から》

講義・演習ともライブ感を大切にしました研修でした。相談員らしくしななければならないということに縛られずに、「自分らしく」支援することで、相談者も「自分らしさ」を見せてくれるようになるということを経験していただけたのではないかと思います。普段の業務に「自分らしい支援」を取り入れていただけたらと思います。